

## II 調査結果



## II 調査結果

### 1 結婚・家族形成についての意識

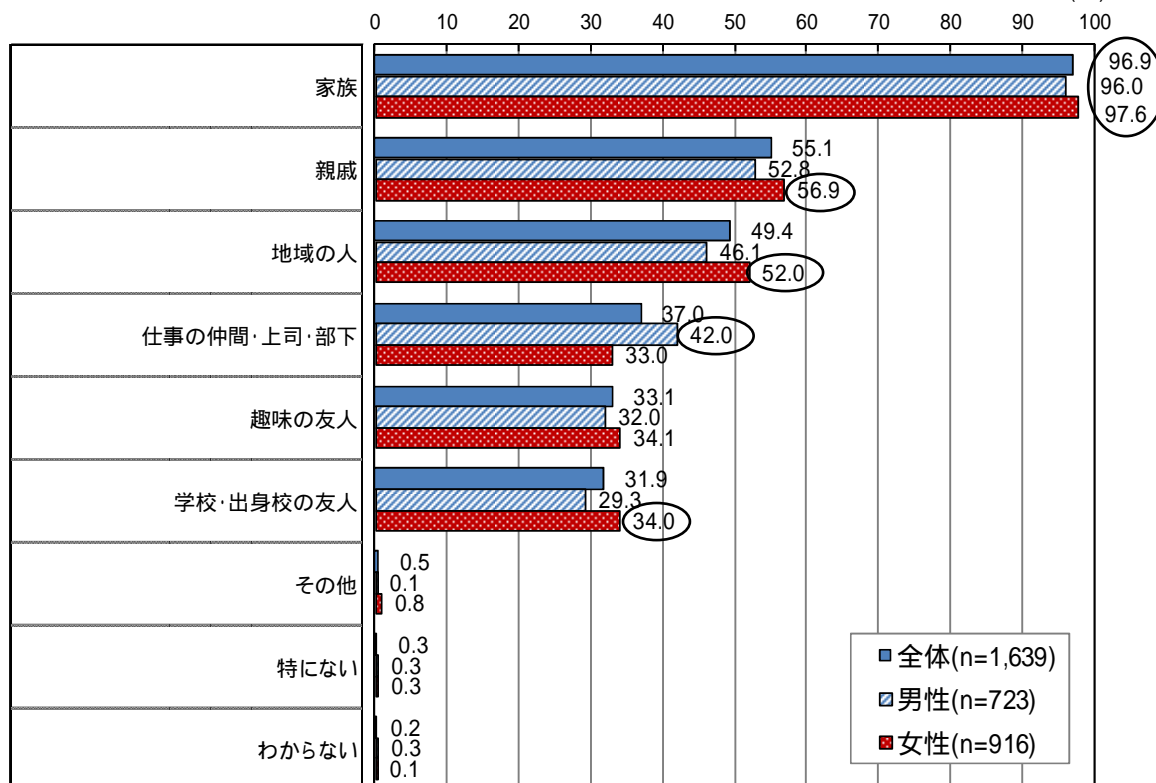
#### (1) 大切と思う人間関係やつながり (Q1)

Q1〔回答票1〕あなたにとって大切と思う人間関係やつながりはなんですか。あてはまるものをいくつでも選んでください。(M. A.)

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| (ア) 家族          | (カ) 趣味の友人 |
| (イ) 親戚          | その他       |
| (ウ) 地域の人        | 特にない      |
| (エ) 仕事の仲間・上司・部下 | わからない     |
| (オ) 学校・出身校の友人   |           |

- 大切だと思う人間関係やつながりとしては(図表 1-1-1)、「家族」が 96.9%と突出して多い。  
以下、「親戚」(55.1%)、「地域の人」(49.4%)が続く。
- 性別にみると、「家族」(男性 96.0%、女性 97.6%)は男女差がなく、男女ともほぼ全数があげている。
- それ以外の項目では、「親戚」(男性 52.8%、女性 56.9%)、「地域の人」(同 46.1%、52.0%)、「学校・出身校の友人」(同 29.3%、34.0%)は、女性の方が男性より多い。
- 「仕事の仲間・上司・部下」(同 42.0%、33.0%)は、男性が女性より9ポイント高い。

図表 1-1-1 大切と思う人間関係やつながり<MA> (全体・性別) (%)



- 性・年代別にみると（図表 1-1-2）、「家族」は、いずれの層でも際立って多い。
- 男性は、20代から40代では「仕事の仲間・上司・部下」が5割台だが、50代では4割台、60代・70代では2～3割台と低くなっている。60代・70代では逆に「地域の人」が5割台と高くなっている。
- 女性も男性と同様に、20代から40代では「仕事の仲間・上司・部下」が4割台半ばから5割強、50代では約4割、60代・70代では1～2割となる。「地域の人」は30代から70代までいずれも4割台後半から5割台で、男性より早い年代から高くなっている。
- 「学校・出身校の友人」は、男女とも20代で「家族」に次いで多くあげられている。

図表 1-1-2 大切と思う人間関係やつながり＜MA＞（性・年代別）

		家族	親戚	地域の人	上 仕 司 事 の 仲 間 ・ 部 下	趣 味 の 友 人	の 学 友 校 人 ・ 出 身 校	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い
全 体	(n=1,639)	96.9	55.1	49.4	37.0	33.1	31.9	0.5	0.3	0.2
男性 小計	(n=723)	96.0	52.8	46.1	42.0	32.0	29.3	0.1	0.3	0.3
20代	(n=64)	95.3	46.9	34.4	54.7	48.4	64.1	-	-	-
30代	(n=94)	100.0	41.5	30.9	54.3	25.5	35.1	-	-	-
40代	(n=141)	99.3	53.2	43.3	56.7	34.0	31.9	-	-	-
50代	(n=123)	97.6	59.3	45.5	43.9	32.5	25.2	-	-	-
60代	(n=161)	95.7	54.0	55.9	34.8	29.8	21.7	0.6	1.2	0.6
70代	(n=140)	89.3	55.7	53.6	20.0	28.6	19.3	-	-	0.7
女性 小計	(n=916)	97.6	56.9	52.0	33.0	34.1	34.0	0.8	0.3	0.1
20代	(n=70)	100.0	44.3	28.6	51.4	31.4	75.7	-	-	-
30代	(n=130)	100.0	57.7	48.5	46.9	37.7	46.2	0.8	-	-
40代	(n=141)	99.3	61.7	53.2	51.1	32.6	53.2	1.4	-	-
50代	(n=169)	98.8	55.6	50.3	39.6	36.7	30.2	1.8	-	0.6
60代	(n=232)	97.4	57.8	57.8	20.7	31.0	18.1	0.4	0.9	-
70代	(n=174)	92.5	57.5	56.9	10.3	35.1	17.2	-	0.6	-

- 性・都市規模別にみると（図表 1-1-3）、「家族」がいずれの層でも 9 割台と多い。
- 大都市在住の男性では、「地域の人」が 32.0%とすべての層のなかで最も少ない。また、「地域の人」は、「家族」（95.9%）、「親戚」（48.5%）、「仕事の仲間・上司・部下」（37.9%）に次ぐ 4 番目であり、重要度が低くなっている。
- 中都市在住の男性では、「仕事の仲間・上司・部下」が 46.4%と他の層よりもやや多い。
- 男女とも郡部（町村）在住者では、「地域の人」（男性 56.9%、女性 56.7%）とのつながりを大切と思う人が「親戚」（同 54.2%、52.2%）よりも多い傾向。女性では「趣味の友人」と「学校・出身校の友人」がそれぞれ 40.0%と他の層よりもやや多い。

図表 1-1-3 大切に思う人間関係やつながり＜MA＞（性・都市規模別）

		家族	親戚	地域の人	仕事・上司・部下の仲間	趣味の友人	学校・出身校の友人	その他	特になし	わからない
全体 (n=1,639)		96.9	55.1	49.4	37.0	33.1	31.9	0.5	0.3	0.2
男性	大都市 (n=169)	95.9	48.5	32.0	37.9	29.0	24.9	-	0.6	0.6
	中都市 (n=302)	97.0	55.0	50.0	46.4	38.1	36.1	0.3	0.3	-
	小都市 (n=180)	95.0	52.8	48.3	40.6	30.6	22.8	-	-	0.6
	郡部(町村) (n=72)	94.4	54.2	56.9	37.5	16.7	27.8	-	-	-
女性	大都市 (n=219)	97.3	48.9	39.7	28.8	33.8	32.9	1.4	0.5	-
	中都市 (n=385)	97.4	61.6	54.5	33.5	34.5	33.0	1.0	-	0.3
	小都市 (n=222)	98.6	58.6	57.7	36.5	31.1	34.2	-	0.9	-
	郡部(町村) (n=90)	96.7	52.2	56.7	32.2	40.0	40.0	-	-	-

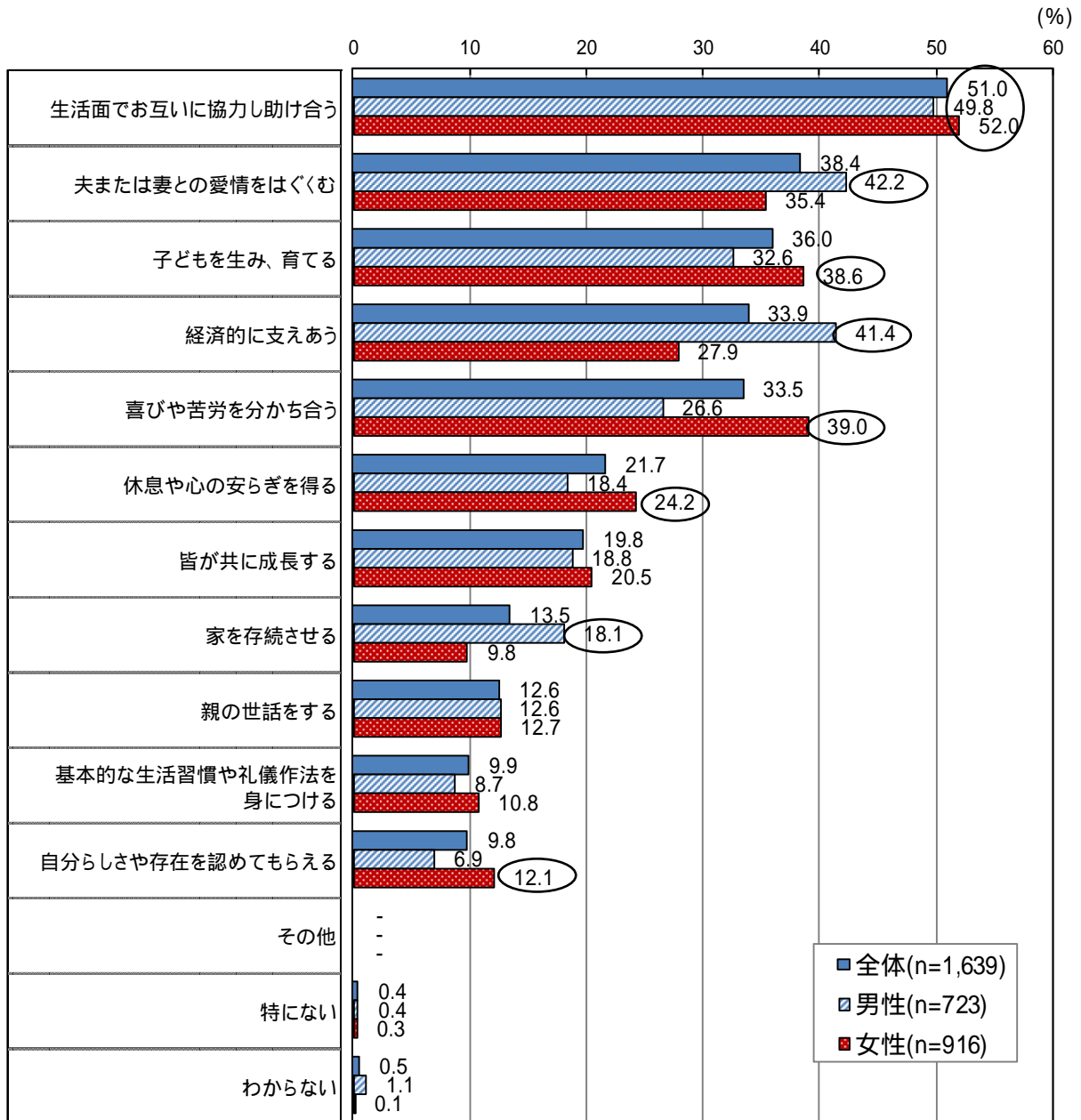
(2) 家族の役割として重要なこと (Q2)

Q2 [回答票2] あなたが、家族の役割として重要だと思うものは何ですか。この中から、特に重要だと思うものを3つまであげてください。(3M.A.)

- (ア) 夫または妻との愛情をはぐくむ
  - (イ) 経済的に支えあう
  - (ウ) 生活面でお互いに協力し助け合う
  - (エ) 子どもを生み、育てる
  - (オ) 家を存続させる
  - (カ) 皆が共に成長する
  - (キ) 親の世話をする
  - (ク) 喜びや苦勞を分かち合う
  - (ケ) 休息や心の安らぎを得る
  - (コ) 基本的な生活習慣や礼儀作法を身につける
  - (サ) 自分らしさや存在を認めてもらえる
- その他  
特にな  
わからない

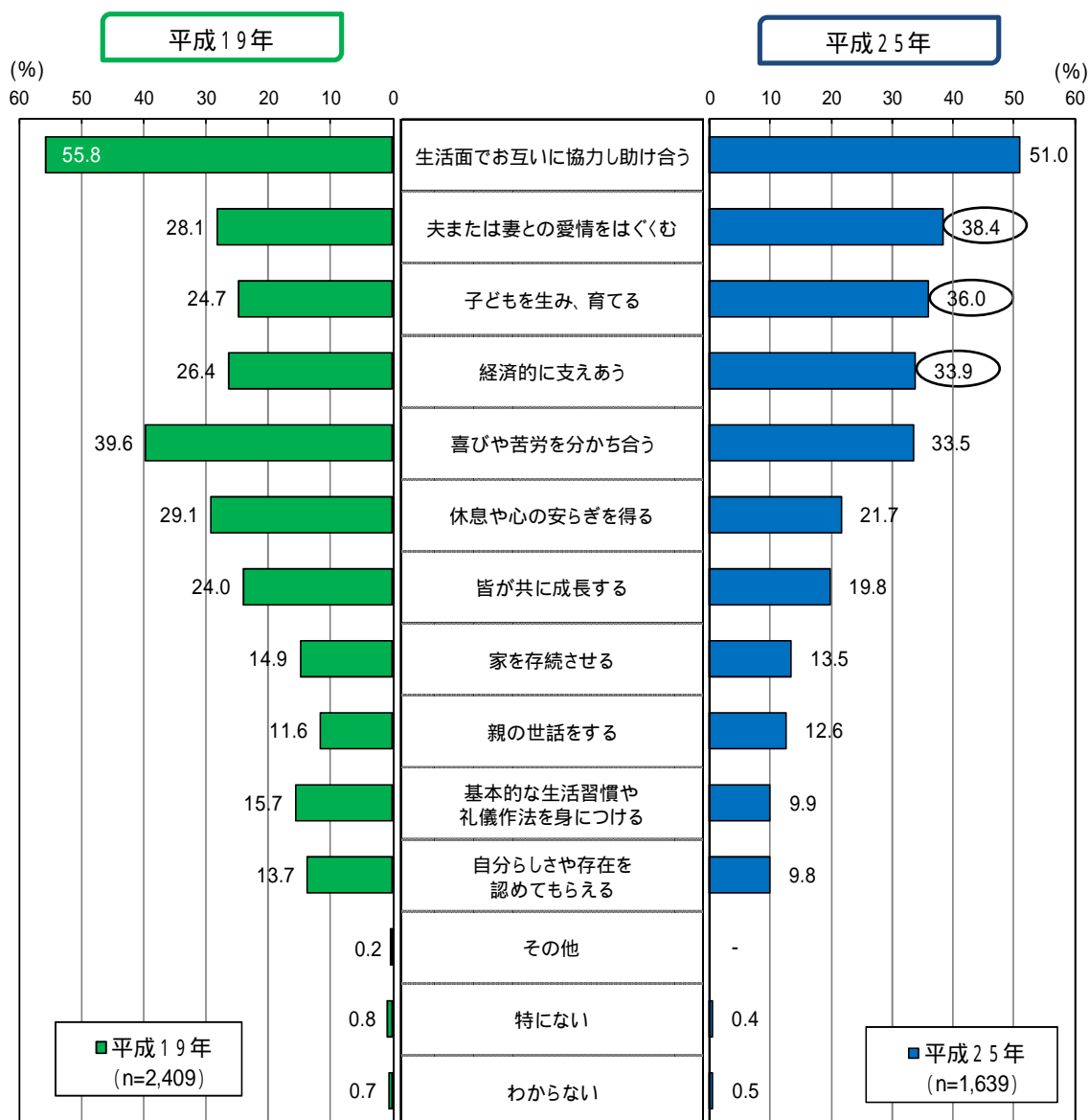
- 家族の役割として重要だと思うものとしては(図表 1-2-1)、「生活面でお互いに協力し助け合う」が51.0%で最も多く、以下「夫または妻との愛情をはぐくむ」(38.4%)、「子どもを生み、育てる」(36.0%)、「経済的に支えあう」(33.9%)、「喜びや苦勞を分かち合う」(33.5%)の順となっている。
- 性別にみると、男女とも「生活面でお互いに協力し助け合う」(男性49.8%、女性52.0%)が5割前後で最も多い。
- 男性では、「経済的に支えあう」(男性41.4%、女性27.9%)は、女性より10ポイント以上高く、「夫または妻との愛情をはぐくむ」(同42.2%、35.4%)、「家を存続させる」(同18.1%、9.8%)も、男性の方が高い。
- 一方、女性では、「喜びや苦勞を分かち合う」(男性26.6%、女性39.0%)が男性より10ポイント以上高く、また「子どもを生み、育てる」(同32.6%、38.6%)、「休息や心の安らぎを得る」(同18.4%、24.2%)、「自分らしさや存在を認めてもらえる」(同6.9%、12.1%)が男性より多い。

図表 1-2-1 家族の役割として重要なこと<3MA> (全体・性別)



- 参考として平成19年1月に実施した「少子化対策と家族・地域のきずなに関する意識調査」の結果をみると（図表1-2-2）、「生活面でお互いに協力し助け合う」は、当時は55.8%で最も多く、今回調査も51.0%と最も多い。
- また、「夫または妻との愛情をはぐくむ」（19年28.1%、25年38.4%）、「子どもを生み、育てる」（同24.7%、36.0%）、「経済的に支えあう」（同26.4%、33.9%）は、いずれも前回調査では2割台であったのが、今回調査ではそれぞれ10ポイント前後高くなり、上位にあげられている。

図表1-2-2 家族の役割として重要なこと<3MA>（参考：平成19年調査）



<参考>

平成19年1月実施調査

調査名：「少子化対策と家族・地域のきずなに関する意識調査」

対象：全国18歳以上の男女4,000人

（注）今回調査の対象：全国20歳～79歳の男女3,000人



- 性・年代別にみると（図表 1-2-3）、男女とも 30 代では「子どもを生み、育てる」（男性 54.3%、女性 53.1%）が最も多く、次に、「生活面でお互いに協力し助け合う」（同 50.0%、50.8%）が続く。
- また、20 代の女性では、「生活面でお互いに協力し助け合う」（54.3%）がトップだが、「喜びや苦勞を分かち合う」「休息や心の安らぎを得る」がそれぞれ 45.7%であり、次に「子どもを生み育てる」が 41.4%で続く。  
「休息や心の安らぎを得る」は 20 代女性で他の性・年代層よりも多い。

図表 1-2-3 家族の役割として重要なこと<3MA>（性・年代別）

		協生活力し助け合う	情夫または妻との愛を	子どもを生み、育てる	経済的に支えあう	喜びや苦勞を分かち合う	休息や心の安らぎを得る	皆が共に成長する	家を存続させる	親の世話をする	や礼儀作法を身につける	基本的な生活習慣を認めてもらえ存在	その他	特にな	わからない	
全体	(n=1,639)	51.0	38.4	36.0	33.9	33.5	21.7	19.8	13.5	12.6	9.9	9.8	-	0.4	0.5	
男性	男性小計	(n=723)	49.8	42.2	32.6	41.4	26.6	18.4	18.8	18.1	12.6	8.7	6.9	-	0.4	1.1
	20代	(n=64)	48.4	29.7	28.1	37.5	26.6	23.4	15.6	15.6	20.3	17.2	14.1	-	-	1.6
	30代	(n=94)	50.0	39.4	54.3	50.0	25.5	21.3	11.7	12.8	12.8	9.6	4.3	-	-	-
	40代	(n=141)	49.6	42.6	44.7	34.0	24.8	19.1	25.5	12.1	14.2	7.8	7.1	-	0.7	0.7
	50代	(n=123)	42.3	38.2	33.3	48.0	27.6	22.0	24.4	19.5	13.8	11.4	5.7	-	-	0.8
	60代	(n=161)	52.8	48.4	23.0	42.9	27.3	14.9	19.9	23.0	10.6	5.6	8.1	-	0.6	-
	70代	(n=140)	53.6	45.7	18.6	37.1	27.1	14.3	12.1	22.1	8.6	6.4	5.0	-	0.7	3.6
女性	女性小計	(n=916)	52.0	35.4	38.6	27.9	39.0	24.2	20.5	9.8	12.7	10.8	12.1	-	0.3	0.1
	20代	(n=70)	54.3	30.0	41.4	12.9	45.7	45.7	17.1	2.9	11.4	2.9	18.6	-	-	-
	30代	(n=130)	50.8	31.5	53.1	20.8	45.4	23.8	25.4	4.6	10.0	8.5	16.2	-	-	-
	40代	(n=141)	56.7	19.1	52.5	23.4	44.0	31.9	24.1	4.3	13.5	10.6	10.6	-	-	-
	50代	(n=169)	53.8	39.6	39.1	33.1	33.7	23.7	18.9	7.1	16.0	12.4	11.2	-	-	-
	60代	(n=232)	46.1	46.6	31.5	29.3	39.2	22.0	16.4	13.8	12.5	9.9	11.2	-	0.9	-
	70代	(n=174)	54.0	34.5	24.7	36.2	32.2	13.2	22.4	18.4	11.5	15.5	9.8	-	0.6	0.6

- 性・都市規模別にみると（図表 1-2-4）、ほとんどの層で「生活面でお互いに協力し助け合う」が最も多いが、男性の小都市在住者では「夫または妻との愛情をはぐくむ」（47.2%）が最も多くなっている。
- 郡部（町村）在住者をみると、男性では「経済的に支えあう」（58.3%）がすべての層のなかで最も多い。女性では「喜びや苦労を分かち合う」（44.4%）がやや多くあげられている。

図表 1-2-4 家族の役割として重要なこと<3MA>（性・都市規模別）

		協生活力し助け合う	情夫まははぐくむ	て子どもを生み、育	経済的に支えあう	ち喜びや苦労を分か	を休得るや心の安らぎ	皆が共に成長する	家を存続させる	親の世話をする	つや礼儀的な生活習慣	を認めらしめや存在	その他	特にな	わから	
全体	(n=1,639)	51.0	38.4	36.0	33.9	33.5	21.7	19.8	13.5	12.6	9.9	9.8	-	0.4	0.5	
男性	大都市	(n=169)	43.8	43.8	33.7	39.1	32.5	21.9	17.8	16.6	10.7	8.3	8.3	-	0.6	0.6
	中都市	(n=302)	55.3	40.4	32.5	39.4	25.5	14.9	20.5	20.2	14.2	10.3	6.0	-	-	1.3
	小都市	(n=180)	42.2	47.2	30.6	40.0	26.1	22.2	18.3	18.3	12.8	7.2	7.2	-	1.1	1.1
	郡部(町村)	(n=72)	59.7	33.3	36.1	58.3	18.1	15.3	15.3	12.5	9.7	6.9	6.9	-	-	1.4
女性	大都市	(n=219)	50.7	31.5	40.2	28.3	39.3	24.7	19.6	6.8	16.0	7.8	13.2	-	0.5	-
	中都市	(n=385)	50.4	37.7	41.3	28.1	37.9	26.2	21.0	8.6	11.4	9.9	13.0	-	-	0.3
	小都市	(n=222)	56.3	39.2	34.7	28.8	38.3	22.1	20.3	11.3	10.8	15.8	7.2	-	0.5	-
	郡部(町村)	(n=90)	51.1	25.6	33.3	24.4	44.4	20.0	21.1	18.9	14.4	10.0	17.8	-	1.1	-

- 性・婚姻状況別にみると（図表 1-2-5）、有配偶男性の上位3項目は「生活面でお互いに協力し合い助け合う」（50.3%）、「夫または妻との愛情をはぐくむ」（48.6%）、「経済的に支え合う」（41.6%）。

有配偶女性では、「生活面でお互いに協力し合い助け合う」（49.9%）が最も多い。次いで、「子どもを生み、育てる」（44.0%）で、他の層よりも多くなっている。3位は「夫または妻との愛情をはぐくむ」（43.1%）である。「夫または妻との愛情をはぐくむ」は、男女とも他の層より多い。

- 未婚男性では、「生活面でお互いに協力し合い助け合う」（54.8%）が最も多く、次いで、「経済的に支え合う」（40.5%）であり、他の項目はすべて2割台以下と少ない。「親の世話をする」（22.2%）が有配偶男性（10.3%）より多いのが特徴的である。

一方、未婚女性では、未婚男性と同様に、「生活面でお互いに協力し合い助け合う」（59.2%）が最も多い。2位以下は未婚男性と異なり、「喜びや苦勞を分かち合う」（48.5%）、「休息や心の安らぎを得る」（39.8%）が続く。

未婚男性・未婚女性において、2位以下にあげられている家族の役割意識に違いがみられる。

図表 1-2-5 家族の役割として重要なこと<3MA>（性・婚姻状況別）

		協生活力生活面でお互いに協力し合い助け合う	情夫または妻との愛情をはぐくむ	て子どもを生み、育てる	経済的に支えあう	ち喜びや苦勞を分かち合う	を休息や心の安らぎを得る	皆が共に成長する	家を存続させる	親の世話をする	つや礼儀的な生活習慣をつける	を認めたらえ存在	その他	特にな	わから
全	体 (n=1,639)	51.0	38.4	36.0	33.9	33.5	21.7	19.8	13.5	12.6	9.9	9.8	-	0.4	0.5
男	有配偶 (n=543)	50.3	48.6	35.0	41.6	27.3	16.8	20.4	17.3	10.3	7.2	5.3	-	0.2	0.9
	未婚 (n=126)	54.8	22.2	24.6	40.5	23.8	25.4	10.3	17.5	22.2	12.7	10.3	-	0.8	1.6
	離死別 (n=48)	33.3	16.7	31.3	37.5	22.9	20.8	25.0	31.3	12.5	14.6	14.6	-	2.1	2.1
女	有配偶 (n=668)	49.9	43.1	44.0	28.7	38.2	22.6	20.2	9.0	11.1	10.6	10.5	-	0.3	-
	未婚 (n=103)	59.2	16.5	24.3	18.4	48.5	39.8	15.5	8.7	18.4	5.8	20.4	-	-	-
	離死別 (n=137)	56.2	12.4	24.8	32.1	35.8	19.7	25.5	15.3	15.3	15.3	13.9	-	0.7	0.7

### (3) 理想の家族の住まい方 (Q3)

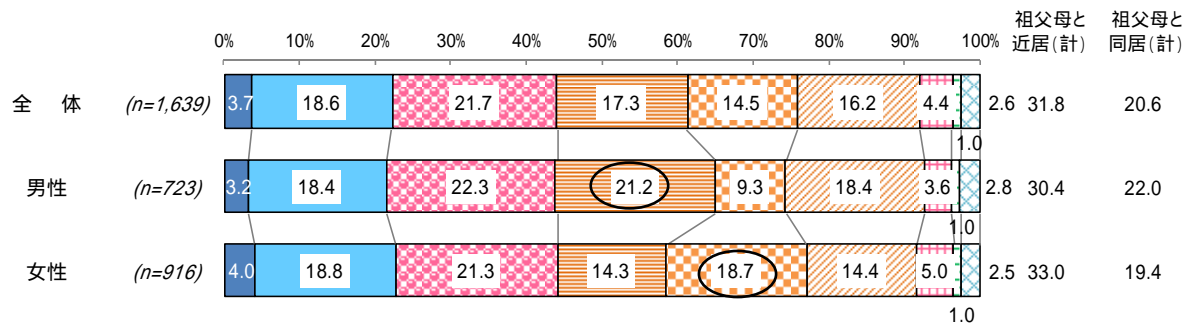
Q3 [回答票3] あなたにとって、理想の家族の住まい方とは、どのようなものですか。

この中からあてはまるものを1つお選びください。

- (ア) ひとり暮らし
- (イ) 夫婦のみの二人暮らし
- (ウ) 親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む
- (エ) 親と子どもの世帯で、父方の祖父母(夫の親)と同居
- (オ) 親と子どもの世帯で、母方の祖父母(妻の親)と同居
- (カ) 親・子ども・父方の祖父母(夫の親)の三世帯世帯(同居)
- (キ) 親・子ども・母方の祖父母(妻の親)の三世帯世帯(同居)
- その他( )
- わからない

- 理想の家族の住まい方を聞いたところ(図表 1-3-1)、「親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む」という回答者が 21.7%で最も多く、次いで、「夫婦のみの二人暮らし」が 18.6%。
- 「親と子どもの世帯で、父方の祖父母(夫の親)と同居」(17.3%)と「親と子どもの世帯で、母方の祖父母(妻の親)と同居」(14.5%)をあわせた『祖父母と同居』を理想の住まい方とする回答者は 31.8%と 3 割強を占める。
- 「親・子ども・父方の祖父母(夫の親)の三世帯世帯(同居)」(16.2%)と「親・子ども・母方の祖父母(妻の親)の三世帯世帯(同居)」(4.4%)をあわせた『祖父母と同居』を理想とする回答者は 20.6%。
- 『祖父母と同居』(31.8%)と『祖父母と同居』(20.6%)を理想と考えている人をあわせると 5 割強である。『祖父母と同居』という回答の方が『祖父母と同居』よりも 11 ポイント多い。
- 性別にみると、『祖父母と同居』については、「父方の祖父母」(男性 21.2%、女性 14.3%)は男性の方が多く、「母方の祖父母」(同 9.3%、18.7%)は女性に多くあげられている。男女とも自身の親との同居を理想とする傾向がみられる。

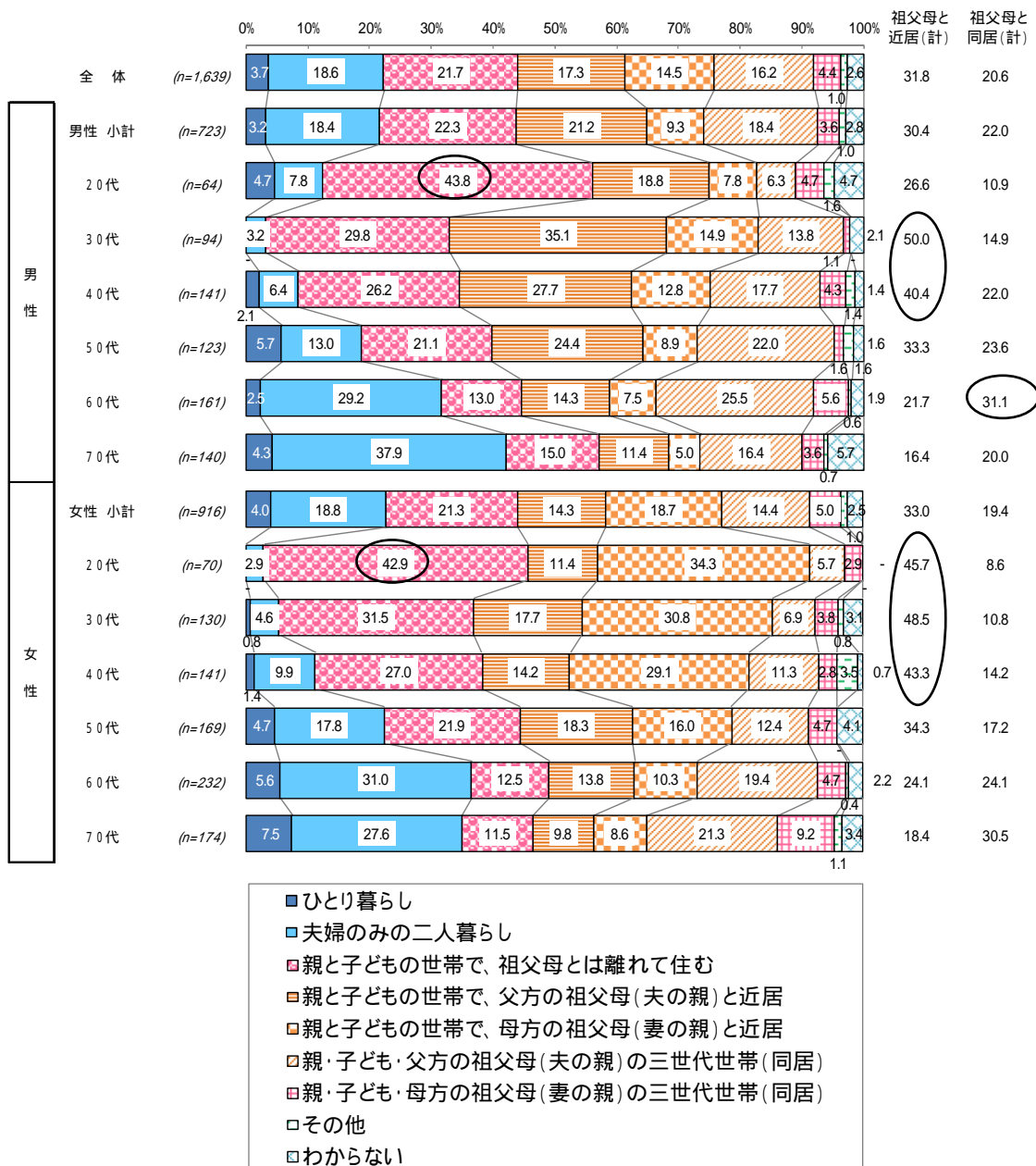
図表 1-3-1 理想の家族の住まい方<SA> (全体・性別)



- ひと暮らし
- 夫婦のみの二人暮らし
- 親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む
- 親と子どもの世帯で、父方の祖父母(夫の親)と近居
- 親と子どもの世帯で、母方の祖父母(妻の親)と近居
- 親・子ども・父方の祖父母(夫の親)の三世代世帯(同居)
- 親・子ども・母方の祖父母(妻の親)の三世代世帯(同居)
- その他
- わからない

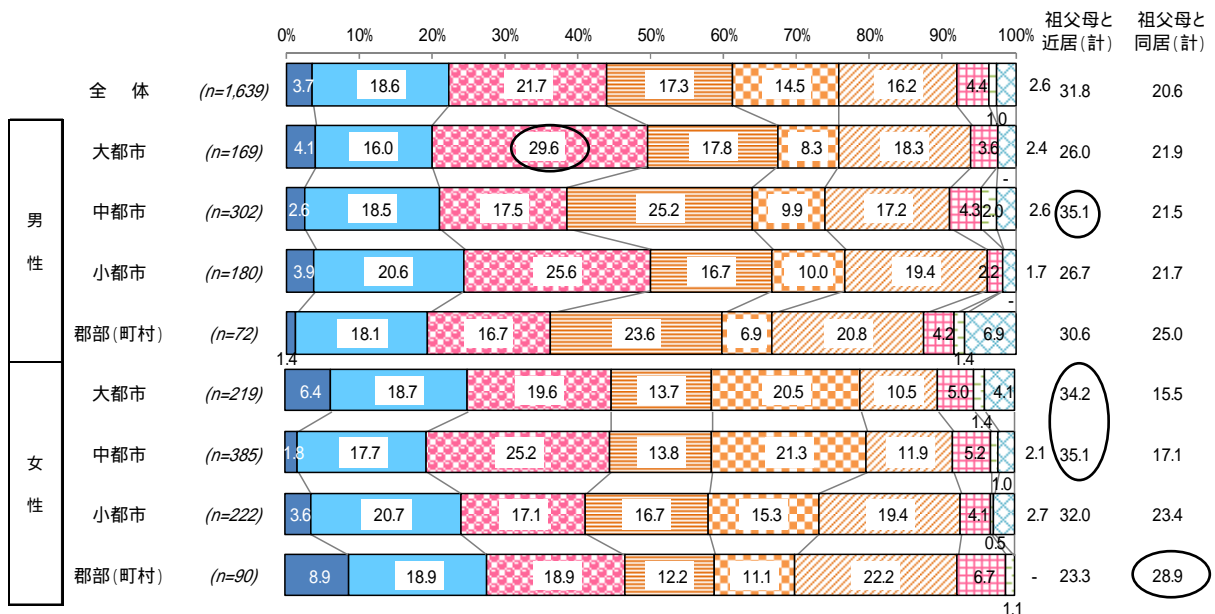
- 性・年代別にみると（図表 1-3-2）、「親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む」を理想とする回答者は年齢が若いほど多い傾向であり、特に男女とも 20 代（男性 43.8%、女性 42.9%）では 4 割を上回っている。
- 『祖父母と近居』（「親と子どもの世帯で、父方の祖父母と近居」＋「親と子どもの世帯で、母方の祖父母と近居」）という回答者は、男女とも 30 代（男性 50.0%、女性 48.5%）で最も高い。男性では 40 代でも約 4 割と高くなっている。女性では、20 代から 40 代で 4 割以上と高くなっている。
- 『祖父母と同居』（「親・子ども・父方の祖父母の三世代世帯」＋「親・子ども・母方の祖父母の三世代世帯」）は、男性では 60 代で約 3 割と高い。女性では、年代が上がるほど、『祖父母と同居』という回答者が多くなる傾向にある。

図表 1-3-2 理想の家族の住まい方<SA>（性・年代別）



- 性・都市規模別にみると（図表 1-3-3）、「親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む」ことを理想とする回答者は、男性の大都市在住者で 29.6%と、他の層よりやや多くなっている。
- 『祖父母と近居』（「親と子どもの世帯で、父方の祖父母と近居」＋「親と子どもの世帯で、母方の祖父母と近居」という回答者は、男性の中都市在住者（35.1%）、女性の大都市（34.2%）・中都市在住者（35.1%）でやや多くなっている。
- 女性の郡部（町村）在住者では、『祖父母と同居』（「親・子ども・父方の祖父母の三世帯世帯」＋「親・子ども・母方の祖父母の三世帯世帯」という回答（28.9%）が他の層よりもやや多くなっており、『祖父母と近居』（23.3%）を上回っている。

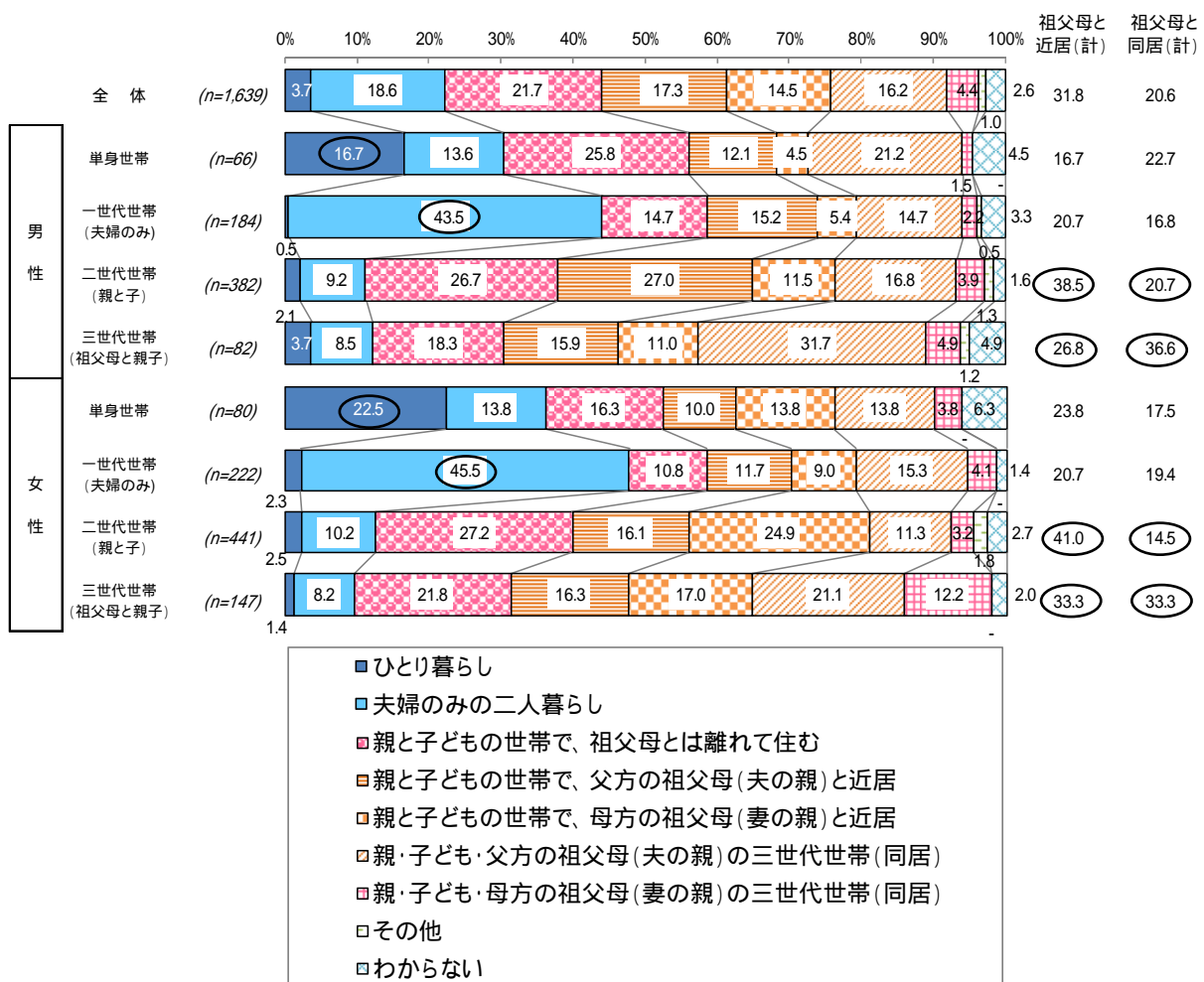
図表 1-3-3 理想の家族の住まい方<SA>（性・都市規模別）



- ひと暮らし
- 夫婦のみの二人暮らし
- 親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む
- 親と子どもの世帯で、父方の祖父母(夫の親)と近居
- 親と子どもの世帯で、母方の祖父母(妻の親)と近居
- 親・子ども・父方の祖父母(夫の親)の三世帯世帯(同居)
- 親・子ども・母方の祖父母(妻の親)の三世帯世帯(同居)
- その他
- わからない

- 性・世帯構成別にみると（図表 1-3-4）、男女とも一世代世帯（現在夫婦のみ）は、理想の家族の住まい方として「夫婦のみの二人暮らし」（男性 43.5%、女性 45.5%）が最も多い。
- 一方、現在単身世帯で、「ひとり暮らし」（男性 16.7%、女性 22.5%）を理想の住まい方という回答者は、2 割前後となっている。
- 二世帯世帯では、男性は『祖父母と近居』（「親と子どもの世帯で、父方の祖父母と近居」）＋「親と子どもの世帯で、母方の祖父母と近居」）が 38.5%、『祖父母と同居』（「親・子ども・父方の祖父母の三世帯世帯」＋「親・子ども・母方の祖父母の三世帯世帯」）が 20.7%。女性では『祖父母と近居』が 41.0%、『祖父母と同居』が 14.5%。女性の二世帯世帯は、他の層と比べても祖父母との近居を理想とする者がやや多くなっている。
- 三世帯世帯では、男性は『祖父母と近居』が 26.8%、『祖父母と同居』が 36.6%と同居の方が多い。一方、女性は『祖父母と近居』と『祖父母と同居』がいずれも 33.3%と同率。

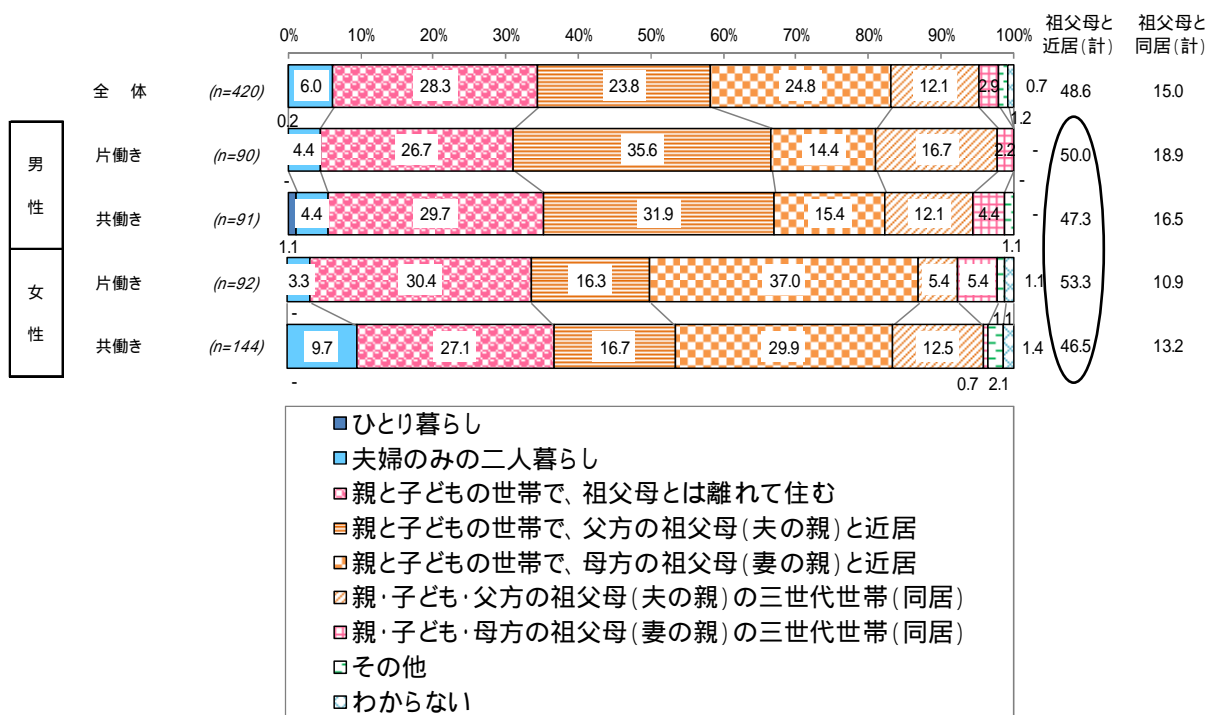
図表 1-3-4 理想の家族の住まい方＜SA＞（性・世帯構成別）





- 20歳～49歳の有配偶者（420人）について、理想の家族の住まい方をみると（図表1-3-5）、「親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む」が28.3%であるが、『祖父母と近居』（「親と子どもの世帯で、父方の祖父母と近居」＋「親と子どもの世帯で、母方の祖父母と近居」）は48.6%とほぼ半数を占めている。『祖父母と同居』（「親・子ども・父方の祖父母の三世代世帯」＋「親・子ども・母方の祖父母の三世代世帯」）は15.0%である。
- 夫婦の就労状況別にみると、男女とも、片働き世帯では『祖父母と近居』という回答が約半数（男性50.0%、女性53.3%）であり、共働き世帯（同、47.3%、46.5%）よりもやや多い傾向である。

図表 1-3-5 理想の家族の住まい方＜S A＞（20歳～49歳有配偶者、性・夫婦就労状況別）



(4) 若い世代で未婚・晩婚が増えている理由 (Q4)

Q4 [回答票4] 日本では、若い世代で「未婚」「晩婚」が増えていると言われています。

その理由はどんなことだと思われますか。

もっともあてはまると思われる理由を、いくつでも選んでください。(M. A.)

- (ア) 結婚の必要性を感じていないから
- (イ) 同棲でよいと思っているから
- (ウ) 仕事(または学業)に打ち込みたいから
- (エ) 趣味や娯楽を楽しみたいから
- (オ) 独身の自由さや気楽さを失いたくないから
- (カ) 異性と知り合う(出会う)機会がないから
- (キ) 希望の条件を満たす相手にめぐり会わないから
- (ク) 異性とうまくつき合えないから
- (ケ) 経済的に余裕がないから
- (コ) 精神的に余裕がないから
- (サ) 結婚生活のための住居のめどがたたないから
- (シ) 親や周囲が結婚に同意しないから
- (ス) 一生、結婚するつもりはない人がいると思うから

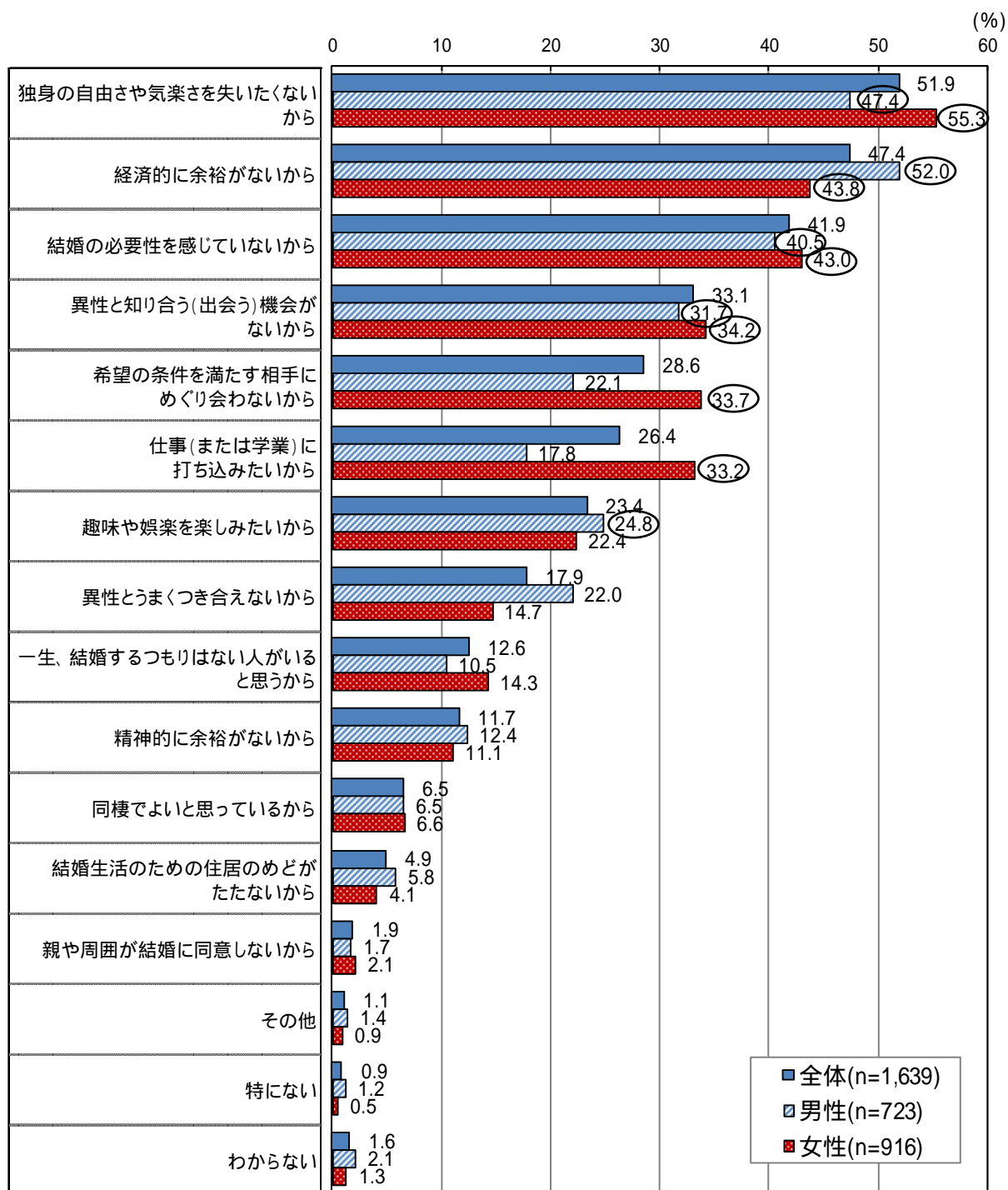
その他

特にない

わからない

- 日本の若い世代に「未婚」「晩婚」が増えている理由の上位3項目は(図表1-4-1)、1位「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(51.9%)、2位「経済的に余裕がないから」(47.4%)、3位「結婚の必要性を感じていないから」(41.9%)の順であり、それ以外の項目は3割台以下となっている。
- 性別にみると、男性では「経済的に余裕がないから」(52.0%)が最も多い。次いで、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(47.4%)、「結婚の必要性を感じていないから」(40.5%)、「異性と知り合う(出会う)機会がないから」(31.7%)、「趣味や娯楽を楽しみたいから」(24.8%)の順となっている。
- 女性では「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(55.3%)が1位となっている。次いで、「経済的に余裕がないから」(43.8%)、「結婚の必要性を感じていないから」(43.0%)が上位3項目。以降、「異性と知り合う(出会う)機会がないから」(34.2%)、「希望の条件を満たす相手にめぐり会わないから」(33.7%)、「仕事(または学業)に打ち込みたいから」(33.2%)が3割台で続き、男性との違いがみられる。

図表 1-4-1 若い世代で未婚・晩婚が増えている理由<MA> (全体・性別)



- 性・年代別にみると（図表 1-4-2）、男性では「経済的に余裕がないから」が年齢が若いほど多く、特に 20 代（68.8%）では 7 割近くとなっている。
- 一方、女性では、全ての年代において「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が最も多い。「仕事に打ち込みたいから」は年齢が若いほど多くあげられる傾向にあり、20 代で 50.0%、30 代で 46.2%。

図表 1-4-2 若い世代で未婚・晩婚が増えている理由<MA>（性・年代別）

		い	独	い	結	な	異	わ	希	業	仕	趣	合	異	も	一	い	て	な	結	同	そ	特	わ
		から	身の	経済	婚	い	性	な	望	業	事	味	え	性	も	生	精	同	住	婚	親	他	に	か
		失	の	的に	の	（	と	い	の	に	（	や	な	と	り	神	様	居	生	や	そ	特	か	
		いた	自	余	不	出	知	相	条	打	ま	楽	い	ま	は	的	で	の	活	周	他	に	ら	
		く	由	裕	便	会	り	手	件	ち	た	し	つ	く	結	に	よ	の	の	囲	他	に	な	
		な	さ	が	さ	の	合	に	を	込	は	を	き	か	婚	に	い	た	た	が	が	に	い	
		気	や	な	感	機	が	満	た	み	学	し	き	き	い	な	な	た	た	の	結	に	な	
		な	な	い	を	会	が	た	た	た	た	し	き	き	つ	い	な	た	た	の	婚	に	い	
全	体	(n=1,639)	51.9	47.4	41.9	33.1	28.6	26.4	23.4	17.9	12.6	11.7	6.5	4.9	1.9	1.1	0.9	1.6						
男	性	小計	(n=723)	47.4	52.0	40.5	31.7	22.1	17.8	24.8	22.0	10.5	12.4	6.5	5.8	1.7	1.4	1.2	2.1					
		20代	(n=64)	48.4	68.8	40.6	21.9	18.8	18.8	34.4	18.8	17.2	21.9	4.7	-	1.6	-	-	-					
		30代	(n=94)	54.3	56.4	46.8	34.0	19.1	24.5	37.2	19.1	10.6	9.6	6.4	4.3	4.3	1.1	1.1	1.1					
		40代	(n=141)	53.2	51.8	50.4	24.8	27.7	23.4	34.0	26.2	7.8	11.3	9.9	5.7	1.4	0.7	0.7	1.4					
		50代	(n=123)	51.2	50.4	46.3	39.8	24.4	14.6	26.0	25.2	10.6	13.0	7.3	4.9	0.8	0.8	-	0.8					
		60代	(n=161)	45.3	49.1	35.4	39.1	23.6	14.3	17.4	23.0	12.4	13.7	5.0	7.5	0.6	1.2	-	4.3					
		70代	(n=140)	35.7	46.4	27.1	25.7	16.4	14.3	10.0	17.1	7.9	9.3	5.0	8.6	2.1	3.6	5.0	2.9					
女	性	小計	(n=916)	55.3	43.8	43.0	34.2	33.7	33.2	22.4	14.7	14.3	11.1	6.6	4.1	2.1	0.9	0.5	1.3					
		20代	(n=70)	58.6	48.6	34.3	34.3	31.4	50.0	37.1	4.3	21.4	12.9	11.4	4.3	1.4	-	-	-					
		30代	(n=130)	61.5	41.5	41.5	30.8	28.5	46.2	29.2	10.0	10.8	15.4	6.9	2.3	3.1	0.8	-	0.8					
		40代	(n=141)	61.7	41.8	49.6	40.4	41.8	36.2	27.7	15.6	18.4	15.6	9.2	4.3	2.1	-	-	0.7					
		50代	(n=163)	56.2	49.1	54.4	36.1	36.1	32.5	22.5	14.8	16.0	5.9	6.5	5.3	3.6	1.2	-	-					
		60代	(n=232)	56.9	44.0	40.9	35.8	34.5	26.7	16.4	17.7	15.1	10.3	4.3	5.2	0.4	0.9	1.3	0.4					
		70代	(n=174)	41.4	39.7	33.9	27.6	28.7	23.6	14.9	17.8	8.0	9.8	5.2	2.9	2.3	1.7	1.1	5.2					

- 性・婚姻状況別にみると（図表 1-4-3）、男性は有配偶か未婚かによって上位 3 項目に違いはみられず、「経済的に余裕がないから」（有配偶 51.6%、未婚 54.8%）、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」（同 50.3%、43.7%）、「結婚の必要性を感じていないから」（同 41.4%、39.7%）の順にあげられている。  
しかし、未婚男性では、1 位「経済的に余裕がないから」（54.8%）と 2 位の「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」（43.7%）の差が 11 ポイントと大きい。
- 一方、女性では、有配偶者も未婚者も「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」（有配偶 56.6%、未婚 57.3%）が最も多い。次いで、有配偶の女性では「結婚の必要性を感じていないから」（45.1%）、「経済的に余裕がないから」（44.3%）が続いている。  
これに対して、未婚女性では 2 位「希望の条件を満たす相手にめぐり合わないから」が 38.8%で、以降、「経済的に余裕がないから」、「結婚の必要性を感じていないから」、「異性と知り合う（出会う）機会がないから」、「仕事に打ち込みたいから」が同率の 36.9%で続いている。
- 未婚の男女で比較すると、「異性とうまくつき合えないから」は未婚男性 20.6%、未婚女性 6.8%と約 14 ポイント差があり、特徴的である。

図表 1-4-3 若い世代で未婚・晩婚が増えている理由<MA>（性・婚姻状況別）

		理由																	(%)							
		い	独	い	結	な	異	わ	希	い	仕	趣	異	も	一	精	同	住	結	同	親	そ	特	わ		
		楽	身	経	婚	な	性	な	望	か	事	味	性	り	生	神	様	居	婚	意	他	に	な	か		
		さ	の	済	の	い	と	い	の	ら	に	や	と	は	的	で	生	活	の	や		に	い	ら		
		を	自	に	必	か	知	相	条	に	ま	娛	ま	な	結	に	余	の	た	が	結					
		失	由	余	要	ら	り	手	件	打	楽	く	い	婚	余	裕	め	め	た	婚						
		いた	さ	裕	性	ら	合	に	を	ち	を	つ	か	す	が	が	た	た	の	に						
		く	や	が	か	ら	う	め	満	込	り	き	ら	い	な	な	な	た	た	に						
		な	な	な	ら	い	が	ぐ	た	み	た	し	ら	つ	い	な	い	め	め	結						
		気	な	い	感	こ	あ	り	会	た	学	し	か	き	つ	な	な	た	た	婚						
		な	い	な	じ	ら	う	合	わ	業	業	た	ら	き	い	な	な	め	め	に						
		い	な	い	を	ら	が	あ	い	を	を	た	ら	き	つ	な	な	た	た	に						
		な	い	な	感	ら	あ	い	あ	を	を	た	ら	き	い	な	な	め	め	に						
		い	な	い	を	ら	あ	い	あ	を	を	た	ら	き	い	な	な	め	め	に						
		な	い	な	感	ら	あ	い	あ	を	を	た	ら	き	い	な	な	め	め	に						
		い	な	い	を	ら	あ	い	あ	を	を	た	ら	き	い	な	な	め	め	に						
		な	い	な	感	ら	あ	い	あ	を	を	た	ら	き	い	な	な	め	め	に						
		い	な	い	を	ら	あ	い	あ	を	を	た	ら	き	い	な	な	め	め	に						
		な	い	な	感	ら	あ	い	あ	を	を	た	ら	き	い	な	な	め	め	に						
		い	な	い	を	ら	あ	い	あ	を	を	た	ら	き	い	な	な	め	め	に						
		な	い	な	感	ら	あ	い	あ	を	を	た	ら	き	い	な	な	め	め	に						
全	体	(n=1,639)	51.9	47.4	41.9	33.1	28.6	26.4	23.4	17.9	12.6	11.7	6.5	4.9	1.9	1.1	0.9	1.6								
男	性	有配偶	(n=543)	50.3	51.6	41.4	30.6	21.9	18.0	24.9	22.7	9.9	10.9	6.4	5.9	1.1	1.7	1.5	2.0							
		未婚	(n=126)	43.7	54.8	39.7	35.7	22.2	19.0	25.4	20.6	12.7	19.0	6.3	3.2	4.0	-	0.8	1.6							
		離死別	(n=48)	29.2	50.0	31.3	33.3	22.9	12.5	22.9	20.8	12.5	12.5	8.3	12.5	2.1	-	-	4.2							
女	性	有配偶	(n=668)	56.6	44.3	45.1	35.3	34.1	35.6	22.3	15.4	14.5	10.8	6.0	3.9	1.6	0.1	0.4	0.9							
		未婚	(n=103)	57.3	36.9	36.9	36.9	38.8	36.9	31.1	6.8	17.5	15.5	8.7	5.8	2.9	1.0	-	1.9							
		離死別	(n=137)	46.7	46.7	38.7	27.0	27.7	18.2	15.3	17.5	10.9	10.2	8.0	4.4	3.6	3.6	1.5	2.9							

(5) 将来の結婚意向 (Q5b)

【Q5a (F1) ※で「4 結婚したことはない」と答えた方に】

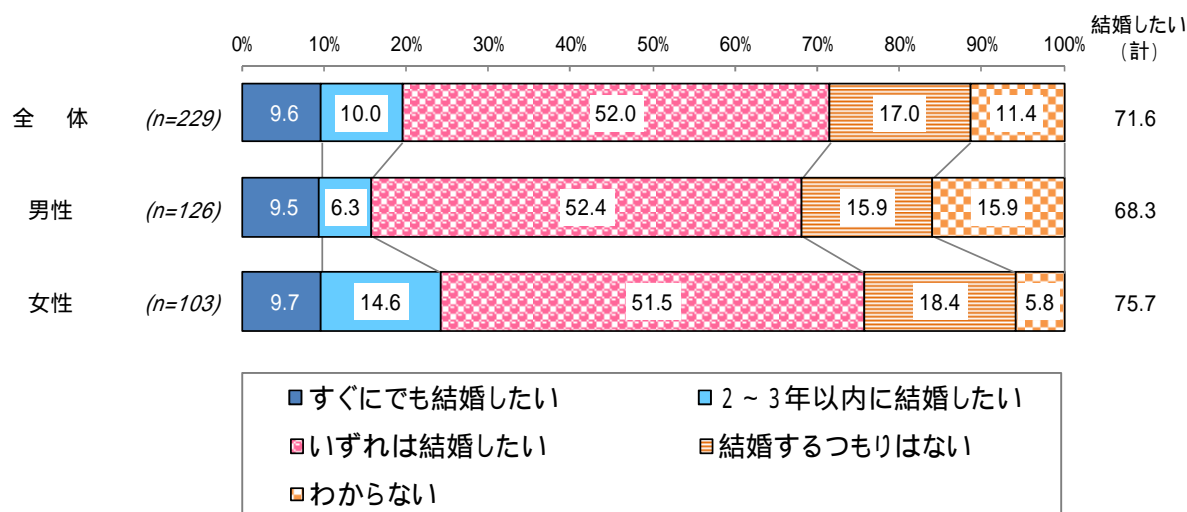
Q5b [回答票6] あなたは、将来結婚したいと思いますか。この中から1つ選んでください。

- (ア) すぐにでも結婚したい
- (イ) 2～3年以内に結婚したい
- (ウ) いずれは結婚したい
- (エ) 結婚するつもりはない
- わからない

※巻末の調査票 (単純集計結果付) のQ5a (F1) を参照のこと

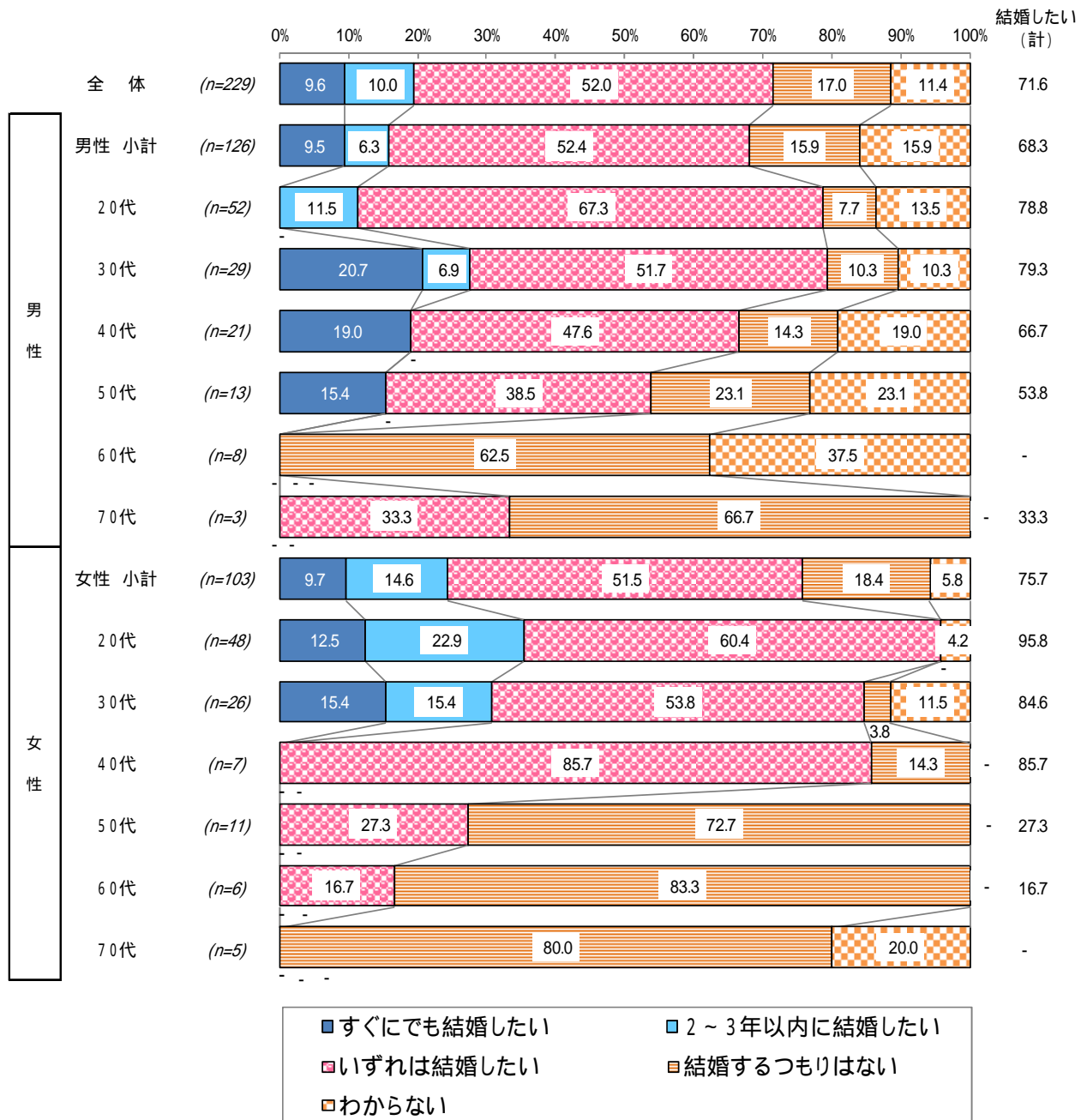
- 未婚者 (229 人) に、将来の結婚意向を聞いたところ (図表 1-5-1)、「すぐにでも結婚したい」という回答者は 9.6% で、「2～3年以内に結婚したい」(10.0%)、「いずれは結婚したい」(52.0%) という回答者をあわせると、7割以上が『結婚したい』と回答している。
- 性別にみると、「2～3年以内に結婚したい」(男性 6.3%、女性 14.6%) という回答者が男性より女性に多く、『結婚したい』という回答は男性 68.3%、女性 75.7% となっている。

図表 1-5-1 将来の結婚意向 < S A > (未婚者、全体・性別)



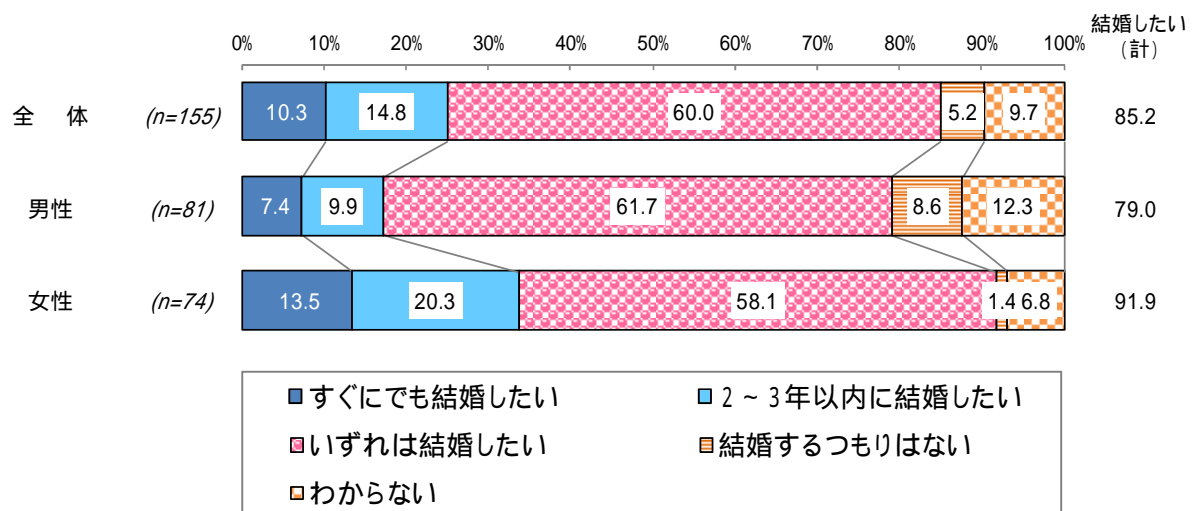
- 属性別の回答者数が少ないため、参考として性・年代別に傾向をみると(図表 1-5-2)、男女とも年齢が若いほど結婚意向は強く、20代女性では9割以上が『結婚したい』(「すぐにでも結婚したい」+「2～3年以内に結婚したい」+「いずれは結婚したい」という意向を持っている。

図表 1-5-2 将来の結婚意向<SA> (未婚者、性・年代別)



- 参考として、20歳～39歳の未婚者（155人）について将来の結婚意向をみると（図表1-5-3）、『結婚したい』（「すぐにでも結婚したい」＋「2～3年以内に結婚したい」＋「いずれは結婚したい」という回答者は85.2%である。
- 性別にみると、『結婚したい』という回答は、男性（79.0%）よりも女性（91.9%）が多い。

図表 1-5-3 将来の結婚意向＜S A＞（20歳～39歳未婚者、全体・性別）





(6) 結婚を決心する状況 (Q5c)

【Q5bで「1～3結婚したい」と答えた方に】

Q5c〔回答票7〕あなたは、どのような状況になれば結婚すると思いますか。

ご自分にもっともあてはまると思われることを、いくつでも選んでください。(M. A.)

- (ア) 適当な年齢になること
- (イ) 結婚の必要性を感じる事
- (ウ) 仕事(または学業)が落ち着くこと
- (エ) まわりの友人が結婚しはじめること
- (オ) 自分の自由になる時間があること
- (カ) 異性と知り合う(出会う)機会があること
- (キ) 希望の条件を満たす相手にめぐり会うこと
- (ク) 異性とうまくつき合えるようになること
- (ケ) 経済的に余裕ができること
- (コ) 精神的に余裕ができること
- (サ) 結婚生活のための住居のめどがたつこと
- (シ) 親や周囲が結婚に同意すること

その他

特にない

わからない

- 結婚意向のある未婚者（164人）が、結婚を決心する状況としては（図表 1-6-1）、「経済的に余裕ができること」が 46.3%で最も多くあげられ、以下「希望の条件を満たす相手にめぐり会うこと」（37.8%）、「結婚の必要性を感じる」（32.9%）、「異性と知り合う（出会う）機会があること」（30.5%）、「仕事（または学業）が落ち着くこと」（28.0%）、「精神的に余裕ができること」（25.6%）の順となっている。
- 回答者全体（1,639人）に、日本の若い世代に「未婚」「晩婚」が増えている理由をたずねた設問（Q4、24ページ）では、1位「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」、2位「経済的に余裕がないから」、3位「結婚の必要性を感じていないから」があげられ、選択肢が異なるため直接比較は難しいものの、違いがみられる。
- 性別にみると、男性では「経済的に余裕ができること」（47.7%）が最も多く、次いで「異性と知り合う（出会う）機会があること」（34.9%）、「仕事が落ち着くこと」（33.7%）の順である。
- 一方、女性では「経済的に余裕ができること」（44.9%）と並んで「希望の条件を満たす相手にめぐり会うこと」（44.9%）があげられ、次いで「結婚の必要性を感じる」（34.6%）となっている。
- なかでも、男性の2位は「異性と知り合う（出会う）機会があること」であり、女性では同率1位が「希望の条件を満たす相手にめぐり会うこと」である。男性では『出会いそのもの』が、女性では『希望の条件を満たす相手との出会い』が必要となっており、男女で結婚を決心する状況に差がみられる。

図表 1-6-1 結婚を決心する状況<MA> (結婚意向者、全体・性別)

